

Department of Education alumni association

あすなろ

2020 No.42



発行
弘前大学教育学部同窓会
相馬正栄

所在地 青森県弘前市文京町1
TEL 0172(39)3314 (学部)



学部長就任にあたって

教育学部長 福島裕敏

同窓会の皆様におかれましては、平素より教育学部の教育研究活動に対して、多大なるご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。特に、新型コロナウイルス感染症拡大に際して、退散祈願のアマビエねぶたと非接触式体温測定カメラ（左下写真参照）を寄贈いただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

私は、令和2年4月に学部長を拝命いたしました福島裕敏と申します。平成17年4月に附属教員養成学研究開発センター専任教員として着任し、平成20年4月から学校教育（教育）講座に所属しております。専門は、教育社会学・教師教育・教育史です。

現在、大学は第三期中期目標・中期計画の5年目にあります。今春には、過去4年間の評価結果が公表されるとともに、令和4年度から始まる第四期中期目標・中期計画の策定作業が本格化いたします。これまで戸塚前学部長のもと、学部では近隣市町村との連携

による地域協働型教員養成を、大学院では青森県教育委員会との連携による教職大学院の創設を、さらに附属学校では常勤校長の公募採用とガバナンスの強化を、それぞれ進めてまいりました。今後も県・市町村教育委員会等との連携を密にしながら、学部・教職大学院・附属学校がチームとなつて、子ども一人ひとりの学びと育ちを支援する「教育プロフェッショナル」の育成を通じて、社会に貢献していきたいと思っております。



非接触式体温測定カメラとアマビエねぶた

さて、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大が報じられる中でのスタートとなりました。本学でも入学式が中止となり、前期の授業は5月からオンラインでの実施となりました。また10月下旬から2週間ほど、そして冬休み明けから1月中旬の共通テストまでの期間もオンライン授業となりました。こうした中、学生たちには、慣れないオンライン授業への対応、実技・実習や課外活動の制限など、不自由かつ寂しい思いをさせることとなりました。特に入学したばかりの一年生は、大学の雰囲気を感じることなく、教員・



コロナ この一年

同窓会長 相馬正栄
(昭和40年卒)

先輩・同級生との出会いも乏しい半年間を送ることとなりました。一方で、夏休み以降再開された対面での講義・実習等では、例年以上に目を輝かせて真剣に取り組む学生の姿を見ることができました。

教育という営みにとつて、人と人の関わりがいかにかけがえないものであるのかを、教職員・学生・関係の方々たち合いながら、これからも教育・研究活動に勤しみたいと思っております。これからもご支援のほどをよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスによる感染が世界的な大流行となり、収束のめど立たないままその対応に追われている。このことを誰が予想できたであろうか。感染者数は新聞に載っているが、その人数は毎日増え続け、このことが我々のすべての生活に影響を与えていることは言うまでもありません。

政府は緊急事態宣言を発出し、感染防止のため不要不急の外出の自粛、「三密」は避け体温の測定、マスクの着用、手指の消毒、うがい、励行、部屋の換気や湿度、湿度にも気を配るなどの行動を要請しました。その自粛要請によつて我々の生活は大きく変化したのです。飲食業における営業時

間の制限やスポーツ、コンサートなどのイベントにおける無観客にはなかなか馴染めず、ストレスが溜まり精神的に参ってしまった、早くコロナが収束することを願ったものです。

大学では全ての学校行事は中止となり、オンライン授業となりました。同窓会としても、オンライン授業のため必要なパソコンやネット環境などが準備できなかったり、家庭からの仕送りが減つたり、アルバイトが無くなつたりと困窮している学生に対し少しでも援助したいと思ひ、学部相談したところ希望者がおらず残念ながら断念しました。その後、大学では校舎内の出入りをスムーズ



弘前城天守と岩木山

に行うため、各学部の正面玄関に発熱やマスク着用を確認する顔認証サーモグラフィカメラを設置してくれましたが、教育学部としては生協や食堂との関係から、学生が頻繁に使用するもう一つの玄関にも設置したいという要望があり、同窓会として同じものを一台寄贈することができました。同時に疫病退散の「アマビエねぶた」を寄贈し、学部正面玄関内に飾って学生を応援しているところでです。

今まで人類はたびたび感染症に見舞われてきましたが、人間の知恵と努力で乗り越えてきたことは事実であり、一人一人の危機管理と医学の進歩、さらに互いに助け合う相互扶助の精神が功なしてきた結果であろう。やがて新型コロナウイルスに対するワクチンが開発され、感染症が収束する時は来ると思うが、今まで学んできた教訓を忘れず、これから来る新しい時代に備えて行きたい。



弘前大学および教育学部における COVID-19への対応

学務委員長 櫻田安志

令和元年末に初めて感染者が確認されたCOVID-19は、令和2年に入って世界中に感染拡大しました。弘前大学でも1月末の文部科学省からの通知を受け、2月初旬から保健管理センターを中心に初期対応を行いました。その後、瞬く間に感染者が増加し、令和元年度学位授与式については卒業生（修了生）のみで短時間での実施となり、令和2年度入学式に関しては残念ながら中止となりました。

新年度に入り、感染症対策を行いながらガイダンス等の必要な手続きを実施した後、健康経過観察（検温等）による学生・教職員の未感染の確認を行った上で、約1カ月の準備期間を設けて、前期期間中の開講科目をすべて遠隔授業（本学ではメディア授業と呼んでいます）で実施しました。この間、教育学部では校舎の一部利用による学生の学習環境整備を行い、複数回のクラスアワーを実施して学生の心身の健康状態の管理・ケアを進めていきました。大学では、独自の奨学金制度を実施し、プレミアム食事券の発行（購入費の補助による生活支援）などを通して、学生に対する多面的な支援活動を行っていきました。

前期期間中、学生の皆さんには屋内で長時間コンピュータ画面を眺めて課題に追われる日々を送っていたり、感染対策を講じている結果となっており、感染症対策の不自由さと併せて心身に負担を強いる結果となっていました。しかし、そういった中でも六月中旬からはサークル活動が開始される等、感染症対策を行いながらの大学生らしい生活がようやく始まった初夏でした。



教職入門における1年生の様子

夏季休業中には、これまで行えなかった対面での授業が可能となったため、対面授業とメディア授業を併用して数多くの前期集中講義が行われました。この頃から教育実習を徐々に始められる状況となり、実習を中心としたカリキュラム構成で教育を進めてきた教育学部としては、何とか本来の力を発揮できるようになりました。

10月に入り対面授業中心で始まった後期授業は、市内でのクラスター発生の影響によって一時的にメディア授業となりましたが、今は落ち着きを取り戻して対面での授業が行われています。大学では11月11日から、包括連携協定を結んでいる県内市町村（13市町村）の地元産品を活用した食支援プロジェクトを行い、現在は一〇〇円ご飯（朝食、昼食弁当、夕食）を年末まで提供するなど、支援は絶え間なく続いています（現在、大学ではクラウドファンディングにより一〇〇円ご飯への出資を募



退職にあたって

美術教育講座 教授 蝦名敦子

一九九八年四月から二〇二〇年度末まで、二十三年間、弘前大学にお世話になりました。美術教育講座の先生方をはじめ、教育学部の先生方や、多くのお仕事を一緒にさせて頂いた先生方、事務職員の皆様にも衷心より感謝申し上げます。

一九九八年は、教育学部の大学院修士課程がスタートした年で、その二年後には生涯教育課程芸術文化コースが開設されました。現在の美術教育講座は、中学校教員養成課程の定員三名のみになりましたが、かつては毎年二十名程の新入生を迎えていたので、随分様変わりしました。生涯教育課程で入学した最後の院生と、卒業生と共に私も退職です。

私は、図画工作・美術の教科教育が専門ですが、生涯教育課程設立の時から、日本画の授業を担当してまいりました。ゼミ生の卒

たー発生の影響によって一時的にメディア授業となりましたが、今は落ち着きを取り戻して対面での授業が行われています。大学では11月11日から、包括連携協定を結んでいる県内市町村（13市町村）の地元産品を活用した食支援プロジェクトを行い、現在は一〇〇円ご飯（朝食、昼食弁当、夕食）を年末まで提供するなど、支援は絶え間なく続いています（現在、大学ではクラウドファンディングにより一〇〇円ご飯への出資を募

っています）。

年末を迎え、この先の事態が全く分からない状況ではありますが、学生たちはよく頑張ってくれています。今後ともきつと順応して、大きく成長してくれることでしょう。

最後になりましたが、教育学部を支えていただいている同窓会の皆様、教育委員会をはじめとする関係各所の皆様には、ご支援・ご協力をいただき、ともに温かい励ましをいただき深く感謝申し上げます。

地域の小・中学校の先生方の交流もありました。造形研究会や研修会等で、地域の先生方が熱心に研鑽を積んでおられた姿は、今も印象深く残っています。

二〇一五年から毎年、開催してきたのが、学外でのワークショップです。弘前市内の会場でワークショップ型展示会を、ゼミ生を中心に、一般の子供たちを対象として行ってきました。学校での学びとは異なった環境であることから、つくることが表現に対する子供のありのままの姿が見られ、子供の造形の原点を考えさせられています。また保護者の方々の交流も得難いものです。

教育学部のお仕事の中から、多くの人々との繋がりが生まれ、皆様にお導き頂きました。そして、人間の創作する姿や作品を通して、造形の喜びを共有し合えたことは、とても幸せに思います。

最後になりましたが、学生の皆さんに感謝しつつ、教育学部の益々の発展をお祈りいたします。有難うございました。



パティオ完成(2011年)



子どもたちの心身が健やかであるために

南部町立福田小学校

看護教諭 酒井 和音

(令和2年 看護教諭養成課程卒)



4年生に性教育を実施

私はこの春から、南部町の小学校で養護教諭を務めています。夢が叶い、晴れて養護教諭になることができたのですが、あれよあれよという間に新学期。そして、いよいよ健康診断が始まるぞという時に、二週間の臨時休校。何が何だか分からないうちに嵐のような日々が過ぎていきました。新型コロナウイルス感染症に振り回され、今年一年どうなるのだろうかと思えば、先にも立ってしまいました。休校中は学校再開に向け、感染症対策について近隣校から情報を集め、消毒液やスプレーボトルの確保に走り回りました。学校が再開してからは、先生方から沢山の助言をいただき、密にならないような工夫、校内の消毒、手洗いうがい・マスク着用徹底の呼びかけ

保健室来室対応にも奮闘中です。保健室には色々な訴えや思いを抱えた子どもたちが来室します。瞬時に緊急性があるか、どんな処置が必要か判断し行動することの難しさ、責任の重さを痛感しています。子どもの声に耳を傾けながら自分なりの見立てをし、一人一人のニーズに合わせた対応を心掛けていますが、自分の見立てが全く違ったり、「この子は一体何を求めて保健室に来たのだろう」と見極めることができなかったりと、難しいな、失敗したかも、と感じる場面は多々あります。あるときは周りの先生方のアドバイスを聞き、またあるときは

自分の勘に頼りながら、子どもたちに対応するなど、日々学ばせていただいているところです。保健室にやってくる子どもの中には、友達関係、親子関係の悩みを打ち明けてくる子どもも少なくありません。そういった悩みに対し、私は一緒に考え、思いを受け止め寄り添うことを大切にしています。そうして、その子どもたちの心が少しずつ晴れていく姿を目にする、私の仕事子どもたちの心の拠り所にもなるのだと、責任感と同時に大きなやりがいを感じます。



手洗いの立体掲示物を作成



コロナ禍での同窓会の活動

例年であれば、六月の「総会」、十月の「教育学部と同窓会の懇談会」等の行事が行われています。「総会」については「中止」、「懇談会」については学部からの「資料送付」で代替というかたちとなりました。

そのような中でも以下のような支援を行うことができましたのでご紹介いたします。

サーモカメラの寄贈

新型コロナウイルス感染による発熱者の早期発見のために、弘前大学では各学部の玄関に「AI顔認証サーモグラフィカメラ」を設置しました。教育学部においては、学生の生協側の出入口の利用も多いため、教育学部同窓会では、サーモグラフィカメラを



AI顔認証サーモグラフィカメラを前に福島新学部長と相馬会長(左)

寄贈させていただきました。また、感染防止の意識を高めてもらうとアマビエのネプタを正面玄関に飾らせていただきました。(右写真) 既卒者対象の教員採用試験対策講座への支援(左案内)

既卒者■のための 教員採用試験対策講座のご案内

既卒者を対象として、主に2次試験対策を実施します。積極的にご参加ください！お申し込み、お待ちしております！

日程：2021年8月2日(月)～8月6日(金) (既卒者のための教員採用試験対策週間です)

①10:20～11:50	②13:00～14:10
③14:20～15:50	④16:00～17:30

対象者：弘前大学卒業生・修了生

内容：主に2次試験対策

①小論文の添削	②自己PR	③個人面接・集団面接
④集団討論	⑤模擬授業	⑥場面指導

場所：弘前大学教育学部2階 教職支援室
担当：教職キャリア支援コーディネーター
葛西 裕幸先生(hi-kasai@hiroasaki-u.ac.jp)
工藤 美代子先生(miyo-kudoh345@hiroasaki-u.ac.jp) 他

申込：弘前大学教育学部教職支援室 0172-39-3423
または、上記の各先生方のメールアドレスまで

- ・小論文添削希望者は、事前にメール(Word形式)で送信ください。
- ・身近な講師にもお伝えください。
- ・様々なご要望に適宜対応いたします。

注目：上記期間以外でも指導いたします。ご連絡ください。

主催：弘前大学教育学部教職支援室・就職支援委員会
後援：弘前大学教育学部同窓会

令和元年度決算

Table with 4 columns: Item, Budget, Actual, Remarks. Rows include Income (Revenue, Surplus, etc.) and Expenses (General, Council, etc.).

Table with 4 columns: Item, Budget, Actual, Remarks. Rows include Expenses (General, Council, etc.) and Summary (Income, Expense, Balance).

Summary table with 3 columns: Income, Expense, Balance. Total balance is 605,578.

残額605,578円は次年度へ繰り越します。

令和2年度予算

Table with 4 columns: Item, Budget, Actual, Remarks. Rows include Income (Revenue, Surplus, etc.) and Expenses (General, Council, etc.).

Table with 4 columns: Item, Budget, Actual, Remarks. Rows include Expenses (General, Council, etc.) and Summary (Income, Expense, Balance).

令和2年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告. 今年度の総会は六月六日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が沈静化できま... 総会で決定する案件(総会議案...)

令和2年度事業計画

- 1, 2年3月 同窓会入会依頼文書・振替用紙送付...
2, 2年4月 弘前大学教育学部入学式へ会長が出席...
3, 2年4月4日 令和2年度会計監査会、評議員会・事務局合同会議開催...
4, 2年4月下旬 総会案内を役員、各支部へ発送...
5, 2年6月6日 令和元年度総会、懇親会を開催...
6, 2年6月下旬 教育学部長へ支援金を贈呈...
7, 2年9月 教育学部との懇談会案内を役員、各支部へ送付...
8, 2年10月 同窓会と教育学部との懇談会、懇親会開催...
9, 2年10月 3年次学生保護者懇談会に会長出席...
10, 2年11月 会報あすなろ42号の原稿依頼する...
11, 2年12月 新入会員へお礼状郵送...
12, 3年1月 会報あすなろ42号の原稿依頼、12月中に回収、整理...
13, 3年2月 新和印刷より各支部へ同窓会報を郵送...
14, 3年2月 やまと印刷より弘前大学同窓会報を各支部へ郵送...
15, 3年3月 弘前大学学位記授与式へ会長出席...
教育学部卒業祝賀会へ会長、事務局出席

令和元年度 庶務報告

- 平成 31年4月5日 弘前大学教育学部入学式へ会長が出席...
31年4月6日 平成30年度会計監査会、評議員会、事務局合同会議を開催...
令和 3年5月1日 平成から令和に改元...
3年5月8日 総会案内を役員、各支部へ発送...
3年5月14日 教育学部新事務局長と同窓会事務局との会議を開催...
6年6月1日 弘前大学創立70周年記念式典、祝賀会に会長、工藤副会長が出席...
7年6月8日 令和元年度総会、懇親会を開催...
8年6月21日 教育学部長へ支援金を贈呈...
9年8月17日 事務局会議を開催...
10年9月18日 教育学部との懇談会案内を役員、各支部へ送付...
11年10月24日 同窓会と教育学部との懇談会、懇親会開催...
12元10月26日 3年次学生保護者懇談会に会長出席...
13元12月1日 会報あすなろ41号の原稿依頼...
14元12月25日 82名の新入会員へお礼状郵送...
15元1月5日 新和印刷より同窓会報あすなろ41号作成依頼...
16元2月15日 新和印刷より各支部へ同窓会報を郵送...
17元2月21日 やまと印刷より弘前大学同窓会報を各支部へ郵送...
18元2月25日 顧問、役員へ会報を郵送...
19元3月9日 会報訂正版、訂正シートを役員、各支部、関係者へ郵送...
21元3月23日 弘前大学学位記授与式、教育学部卒業祝賀会(中止)に新型コロナウイルス感染症の影響で会長欠席

令和元年度特別基金報告

Table with 4 columns: Category, Bank Name, Amount. Rows include Income (Revenue, Interest) and Expenses (General, Total).

令和2年度役員

◇同窓会が設立当時から一〇年間程全員が加盟して推移してきてきたが、今年度の加入者が減少し、昨年までの最大の目標であったが、今年度の加入者が減るという状況が、教育者として、教育者としての責任を、教育者としての責任を、教育者としての責任を...

- 支 弘前・中松千部 (弘前市)
1 黒石・平川南 (弘前市)
2 五所川原 (弘前市)
3 黒石・平川南 (弘前市)
4 つがる (弘前市)
5 青森・東支 (弘前市)
6 八戸・三戸 (弘前市)
7 三沢・十和田 (弘前市)
8 弘大教育 (弘前市)
9 葛西村 (弘前市)
10 常任委員 (弘前市)
11 佐藤 (弘前市)
12 藤田 (弘前市)
13 花田 (弘前市)
14 工藤 (弘前市)
15 小笠原 (弘前市)
16 荒谷 (弘前市)
17 福藤 (弘前市)
18 佐藤 (弘前市)
19 中藤 (弘前市)
20 伊藤 (弘前市)
21 藤田 (弘前市)
22 藤田 (弘前市)
23 藤田 (弘前市)
24 藤田 (弘前市)
25 藤田 (弘前市)
26 藤田 (弘前市)
27 藤田 (弘前市)
28 藤田 (弘前市)
29 藤田 (弘前市)
30 藤田 (弘前市)
31 藤田 (弘前市)
32 藤田 (弘前市)
33 藤田 (弘前市)
34 藤田 (弘前市)
35 藤田 (弘前市)
36 藤田 (弘前市)
37 藤田 (弘前市)
38 藤田 (弘前市)
39 藤田 (弘前市)
40 藤田 (弘前市)
41 藤田 (弘前市)
42 藤田 (弘前市)
43 藤田 (弘前市)
44 藤田 (弘前市)
45 藤田 (弘前市)
46 藤田 (弘前市)
47 藤田 (弘前市)
48 藤田 (弘前市)
49 藤田 (弘前市)
50 藤田 (弘前市)
51 藤田 (弘前市)
52 藤田 (弘前市)
53 藤田 (弘前市)
54 藤田 (弘前市)
55 藤田 (弘前市)
56 藤田 (弘前市)
57 藤田 (弘前市)
58 藤田 (弘前市)
59 藤田 (弘前市)
60 藤田 (弘前市)
61 藤田 (弘前市)
62 藤田 (弘前市)
63 藤田 (弘前市)
64 藤田 (弘前市)
65 藤田 (弘前市)
66 藤田 (弘前市)
67 藤田 (弘前市)
68 藤田 (弘前市)
69 藤田 (弘前市)
70 藤田 (弘前市)
71 藤田 (弘前市)
72 藤田 (弘前市)
73 藤田 (弘前市)
74 藤田 (弘前市)
75 藤田 (弘前市)
76 藤田 (弘前市)
77 藤田 (弘前市)
78 藤田 (弘前市)
79 藤田 (弘前市)
80 藤田 (弘前市)
81 藤田 (弘前市)
82 藤田 (弘前市)
83 藤田 (弘前市)
84 藤田 (弘前市)
85 藤田 (弘前市)
86 藤田 (弘前市)
87 藤田 (弘前市)
88 藤田 (弘前市)
89 藤田 (弘前市)
90 藤田 (弘前市)
91 藤田 (弘前市)
92 藤田 (弘前市)
93 藤田 (弘前市)
94 藤田 (弘前市)
95 藤田 (弘前市)
96 藤田 (弘前市)
97 藤田 (弘前市)
98 藤田 (弘前市)
99 藤田 (弘前市)
100 藤田 (弘前市)

お知らせ

協力をお願いして、会費を増やすための努力を続けたい。コロナ禍から学生を支援したいと考えている。支援基金を有意に活用したい。その旨を申し出たが、教育者としての責任を、教育者としての責任を、教育者としての責任を...